

# 飛び出せ 学校

この新聞は、竹田市南部小学校の6年生(衛藤沢美教諭=31人)が、大分合同新聞の記者と一緒に作りました。

## 大分合同新聞

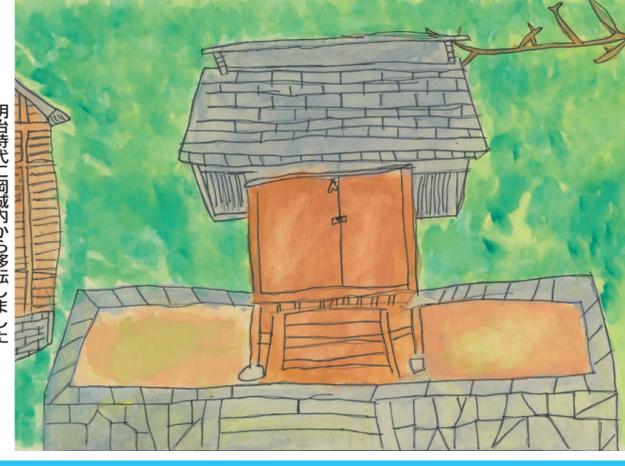
発行所 竹田市 南部小学校 6年生

# 発見! 南部小校区の魅力

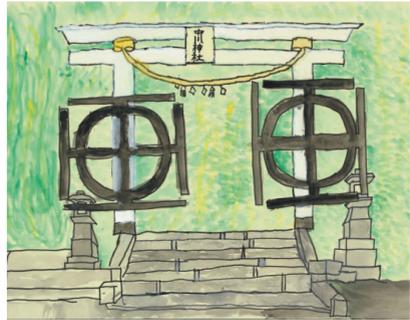
竹田市は岡城が有名ですが、私たちが住む玉来地区にも江戸時代に岡城の城主だった中川家に関する場所があります。私たちが中川神社の歴史について話を伺いました。中川家の歴史は、中川家の初代清秀、秀政、秀成、久清がまつられています。江戸時代は岡城内にありましたが、明治時代の廃藩置県に伴って、ここに移動したそうです。また、神楽殿には西南戦争の跡が残っていて、神社もこの戦に巻き込まれたことがわかりました。神楽殿は現在、市の有形文化財に指定されています。取材を通して中川神社は岡城とつながりがある神社ということがわかりました。皆さんも一度中川神社を訪れてみてください。

## 岡城と緑が深い中川神社

中川神社の取材を終えた私たちは、渡部さんの案内で拝田原稲荷山にある扇森稲荷神社へ行きました。朱色の大きな鳥居は、高さが17尺もあり、県一の大きさだといわれています。中川神社の始まりは、今から約400年前の1616年、岡藩第2代藩主中川久盛公の時です。正式名称は「扇森稲荷神社」ですが、通称「こうとうさま」と呼ばれています。そう呼ばれるようになったのは、岡藩第12代藩主中川久昭公の時です。私たちは1年生の時から春の遠足でこの場所に毎年来ていました。キツネの置物がたくさんあるので、キツネが神様だと思っていました。しかし、渡部さんのお話で、神社には五つの神様がまつられていて、キツネは神様のお使いということがわかりました。また、今から37年前には、神社の周辺から二つの横穴墓が発見されていて、これは5世紀から6世紀初頭のものでわかっています。神社の裏山にも初めて登りました。「こんびらさま」がまつられていて、遠くの山が見えました。渡部さんは「久住山、祖母山、阿蘇山が見える場所なので昔からこの場所で信仰があったのだと思います」と話してくれました。いつも行く神社に知らないことがたくさんあることがわかり、奥が深いと感じました。



明治時代に岡城内から移動しました



岡藩主だった中川家の家紋と中川神社の鳥居



高さが17尺あり、県一の大きさだといわれている扇森稲荷神社の鳥居



「こんびらさま」がまつられていて、遠くの山が見えました。渡部さんは「久住山、祖母山、阿蘇山が見える場所なので昔からこの場所で信仰があったのだと思います」と話してくれました。いつも行く神社に知らないことがたくさんあることがわかり、奥が深いと感じました。

## 50年続くホテルの光

南部小学校の児童は、毎年6月に、国立別府重度障害者センターの方々とホテルを通じた交流「ホテルおくり」をしています。なぜ、ホテルおくりが始まったのか知りたいと思います。この活動にこれまで関わってきたホテル岩城屋会長の菅謹一郎さんに話を伺いました。菅さんは「岩城屋会長の菅謹一郎さん(81)に話を伺いました。始まりは1965年(昭和40年)菅さんのお父さん・八郎さん(故人)と奥さんは、東京在住のお孫さんにホテルを借りるため訪問することができませんでした。私たちが昨年コロナの影響で訪問することができませんでした。11月にリモートで私たちの歌声とホテルおくりの紙芝居を見ていただきました。センターの方の笑顔を見ることができてうれしかったです。今年こそは訪問して交流できるようにしたいと思います。」

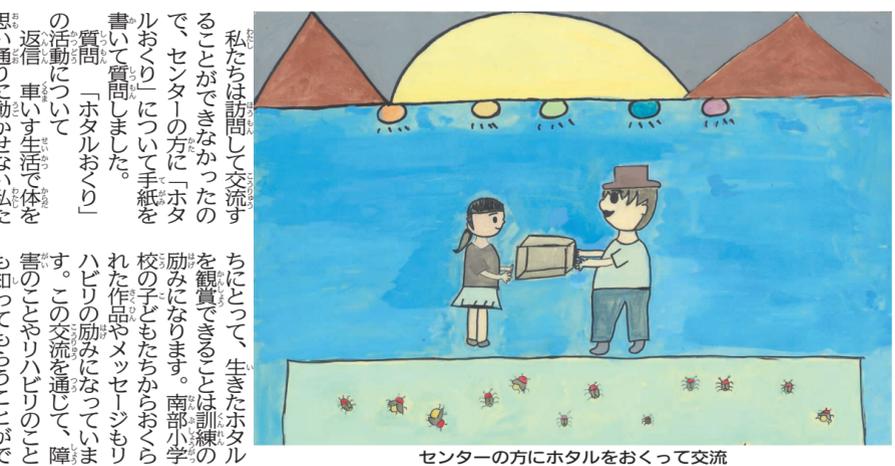


夜行列車での出会いから交流が始まりました



菅謹一郎さん(81)に話を伺いました

## 今年に行きたい交流会



センターの方にホテルをおくって交流

私たちは訪問して交流することができなくなったので、センターの方に「ホテルおくり」について手紙を書いて質問しました。質問 「ホテルおくり」の活動について返信 車いす生活で体を思い通りに動かせない私たちが、今年こそは訪問して交流できるようにしたいと思います。

## 新聞ができるまで

竹田市南部小学校は、大型商業施設が集まる玉来地区にある。6年生31人は地域を見詰め直そうと歴史や伝統をテーマに選んだ。取材を通じて感じた魅力を詰め込んだ新聞を完成させた。取材に先立ち、記者に学んだ。大分合同新聞社竹田支局の原田宏一記者(43)は「相手の話もしっかりと耳を傾け、思いやエピソードを記事に盛り込んで」とアドバイス。児童は紙面の構成を考え、学校を飛び出した。



◎竹田支局の原田宏一記者から取材の仕方や記事の書き方のコツを学んだ(2021年5月19日) ◎ボランティアガイドの渡部喜代美さんから神社の由来について話を聞いた(10月5日) ◎「記事の内容がひと目で分かる見出しを付けよう」とグループで案を出し合った(12月7日)

市内拝田原の中川神社拝殿(市指定有形文化財)では、ボランティアガイドの渡部喜代美さん(54)に質問。岡藩初代藩主の中川秀成らまつっていることなどを聞いた。明治期の廃藩置県により、岡城跡(国指定史跡)から常盤山の山頂に移ったことを学習。近くの扇森稲荷神社では、高さ17尺の大鳥居を見上げた。

同校と国立別府重度障害者センター(別府市南荘園町)の交流「ホテルおくり」にも注目。1965年にきっかけをつくった菅八郎さん(故人)の長男謹一郎さん(81)は「ホテルを

孫に渡そうと東京行きの夜行列車に乗った父がセンター所長と出会ったのが始まり」と語った。活動がセンターの利用者の励みになっていることを聞き、「コロナ禍が終息し、今年

は3年ぶりに対面できるように」と願った。取材後、大分合同新聞社ニュース編集部伊東勇一記者(38)から見出しやレイアウトを学んだ。



新聞づくりの様子をご覧ください

この企画は小学生(主に5、6年生)が、地域の魅力や課題を取材し、新聞にまとめる作業を通して古里を見詰め直すことを目的としています。問い合わせは大分合同新聞社地域連携室「飛び出せ学校」係へ。☎097-538-9729、Eメールnie@oita.press.co.jp